

2025



福岡の頼れる お医者さん

2025
Vol. 8

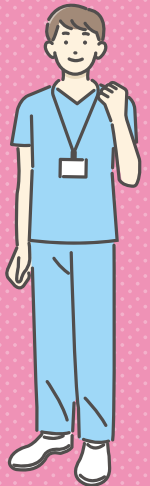
550yen

私たちが
お話しします!



現代医療の進歩
身体に負担をかけない
手術・治療法

「巻頭特集」



福岡の専門医に聞きました。

「知っておきたい! 医療トピックス」

エリア別医療機関一覧

がんの自由診療について

ステージIVでも、手術はもうできないという患者さんでも、生きること諦めてほしくないがん治療に「自由診療」という選択肢を



福岡天神がんクリニック 院長 村上 卓夫 先生

山口大学医学部卒。八幡浜市立総合病院外科、山口大学医学部外科での勤務を経て、メイヨークリニック(アメリカ)、ミュンヘン大学(ドイツ)へ留学。帰国後は、岩国市医療センター医師会病院院長、山口大学医学部第二外科臨床教授を歴任。専門は消化器外科一般、とくに食道外科。

2人に1人が発症 治療の選択肢を知ろう

あなたの周りに、がんの既往歴がある人はいないだろうか。日本は、2人に1人が一生のうち何らかのがんにかかるという推計されている。大國。決して珍しい病気ではない。事実、ここ20年余りの間、死因の1位を占めているのがんで、実に3人に1人という高い割合にある。一方で、がんの治療は日進月歩している。現在、公的医療保険が適用されるがん治療は、手術によってがんを取り除く「手術療法」、放射線をあて、がん細胞を死滅させる「放射線療法」、抗がん剤などの薬を服用したり、点滴・注射するなどのしりして、がん細胞の増殖を抑える「化学療法」のいわゆる標準三

大療法三つ。がんの種類や進行度に応じて、これらの治療を単独ないし、組み合わせで行なうことが推奨されている。がんは痛みを伴うことも多く、化学療法や放射線治療による副作用で、さまざまな苦痛、不快感を感じることも多い。そのため、治療と並行して、心と体の苦痛を和らげ、なるべくいつも通りの生活を送るためにQOL(クオリティオブライフ)の維持をすることも大切だ。

同時に「がんを治すための治療法は、これだけに限ったものではないことを知ってほしい」と話すのは、『福岡天神がんクリニック』の村上卓夫先生だ。食道がんの専門外科医として、山口大学医学部附属病院の助教授(現準教授)、岩国市医療センター初代院長などを歴任。アメ

リカでの医師留学などを経験し、日本以外の医療への知見を深めた経験を持つ。その村上先生も、数々の症例と向き合う中で、「三大標準治療では、残念ながら100パーセントの治療ができない方がおられるのも現実です。進行したステージIVの状態では、手術は適応できず、医師として手の施しようがない」という場面も経験しました。それはとても歯痒いことだと、目の前の医療に限界を感じる場面を経験してきた。ただ、「何度か世界の医療現場を経験、見学してきましたが、世界各国には治療法が多々あり、臨床現場で実践されています。日本で保険適用になっていなくても、まだやれることがあるのでは」と感じたと語る。

自由診療のがん治療 メリットとデメリット

村上先生が院長を務める『福岡天神がんクリニック』では、保険適用になっていない「遺伝子治療」「光免疫治療」「分子標的ワクチン療法」による治療を積極的に実施している。これは、三大標準治療を行っていない大学病院やがん拠点病院では受けられない治療。特に「分子標的ワクチン療法」は、国内に入ってきて間もないため、受けられる医療機関が少ない稀有な治療法だ。

国内での症例数が少ないことや、治療費が100%自己負担であるため、経済的負担が大きいという点はデメリットだろう。ただ、保険適用の三大標準治療に限界を感じ、希望を失っていた人たちにとっては、



補充治療として「高濃度水素吸入」「高濃度ビタミンC点滴」も行っている

選択肢が広がることは喜ばしい。そういった患者さんや家族の不安に配慮し、『福岡天神がんクリニック』では、海外の症例などを調べた上で、村上先生が有益と感じた治療法を導入。さらに、患者さんに対しては、インフォームドコンセント(医療説明と同意)の時間を最重視し



著作「医療は患者さんのためにある」を手にする村上先生

「遺伝子治療」と「光免疫治療」

患者さんから需要の多い「遺伝子治療」は、がんの発生と成長のメカニズムに基づいた治療法。がん患

者さんから需要の多い「遺伝子治療」は、がんの発生と成長のメカニズムに基づいた治療法。がん患

者さんは、がん抑制遺伝子が欠損の傾向にあることが分かっている。それを補うため、がん抑制タンパクを作る遺伝子をベクターと共に点滴などによって投与。投与した遺伝子が、体内でがん抑制タンパク質を作ることができるようになり、がんを死滅にまで導くことを期待した治療法だ。

この治療のいいところは、放射線治療や抗がん剤治療などの標準治療と併用できること。最近では、この治療法に理解のある医師も多いため、「紹介状をいただくこともありませんね。大学病院等と連携して進められる治療です」と村上先生。同時に、ステージ(前癌・末期・転移・再発)や、がんの種類を問わず全身に作用するという点でも期待値が高い。

治療によってダメージを受けるが、光免疫療法はがん細胞に対する免疫の活性化も期待できる点が優れている。ただ、三大標準治療と同様に、これらの治療法だけではすべてのがんが治せるわけではない。個人差もあれば、治療を併用することで相乗効果が高まり、結果的にがんが小さくなる効果が生まれるケースもあるだろう。



光免疫治療 光照射の一例

村上先生は「私は患者さんサイドにたった医療を行うことで、多くのがん患者さんに貢献したいと思っています。患者さんの延命に寄与

MEDICAL TOPIC

多彩な治療法で がんに苦しむ患者と向き合う

「遺伝子治療」「光免疫治療」「分子標的ワクチン療法」による治療は、それぞれメリット、デメリットがある。前者の2つは、医療現場での認知度が高まっている治療で、症例数も増えているが、「分子標的ワクチン療法」は国内での症例数が少ない。ただ、全く新しいアプローチでがん細胞を狙い撃ちできる治療法。事前検査と、筋肉注射3回、効果測定4回だけと通院回数も少なく、精神的、身体的負担も少ないことから、今後注目を集めそう。自由診療は、効果や治療法もさることながら費用面も気になる。参考にしてみよう。

治療費の目安

内容	時間/回数	料金(税込)
インフォームドコンセント	2時間想定	16,500円
遺伝子治療 1クール目	5回	1,540,000円
遺伝子治療 2クール目	5回	1,540,000円
光免疫治療 1クール	5回	1,650,000円
光免疫治療 2クール	10回	2,750,000円
分子標的ワクチン 1クール目	3回	1,980,000円

HOSPITAL DATA

福岡天神がんクリニック

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-39 ジラソーレ大名7階
☎092-707-1710
https://tenjin-cc.net

診療科目
腫瘍内科



診療日	月	火	水	木	金	土	日
10:00~18:30	○	○	○	—	○	—	—

受付時間: 月~金 10:00~18:30 休診: 木・土曜、日祝日
※完全予約制/自由診療

